

# 熊商モード

新熊商ホームページ <https://sh.higo.ed.jp/kumamoto-ch/>

## 第72回卒業証書授与式

<校長式辞(～抜粋～)>早春の日差しの中、校庭の木々のつぼみも日ごとに膨らみを増し、今年もまた、希望に満ちた春が巡ってきました。この春の佳き日に、保護者の皆様にご臨席を賜り、ここに熊本県立熊本商業高等学校第72回卒業証書授与式を挙げてまいりますこと、心から感謝申し上げます。(中略)また、本校の教育活動に深くご理解と温かいご協力、ご支援を賜りましたこと、熱くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。さて、ただいま卒業証書を授与しました364名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。振り返れば、様々な思い出が、走馬灯のように去来していることと思います。本校における経験を糧に、新しい道をしっかりと歩んでほしいものですが、今からの世の中は、あらゆる面において、これまで皆さんを慈しみ育ててくれた先生方、時には優しく叱咤激励し教訓してくれた先生方、そして思いやりをもって温かく見守っていただいた地域の方々などに支えられたものです。そのことに対する感謝の気持ちを忘れてはなりません。どんな時代にあっても、社会生活の基本的な心構えは思いやりと情です。自然や他者への感謝の念を持ち、また自然や他者を思いやる心がとても大切です。皆さんは、いよいよ明日から新しい生活が始まります。家族や親友、そして郷土への感謝の気持ちをいつまでも忘れないでください。そして124年に及ぶ本校の輝かしい伝統に大きな誇りを抱き、本校で育んだ「礼節・剛健」の精神を心の糧に、社会の有為な形成者となるべく、それぞれの道を力強く邁進し、理想に燃えた心豊かな若人として、明日へと大きく羽ばたいてください。これからの皆さんの人生において、いかなる状況にあっても、青春時代の一頁を綴った母校に思いを馳せ、そこから新たな力を湧き立たせてほしいと願っています。最後になりましたが、保護者の皆様には、ご多用の中、ご臨席を賜り、若人の門出に温かい祝福をいただき、あらためてお礼を申し上げます。今後とも本校のさらなる発展のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。卒業生の皆さんの前途に限りない期待を寄せ、素晴らしい未来が開かれんことを念じて、式辞といたします。

令和2年3月1日 熊本県立熊本商業高等学校長 徳永 憲治

<答辞>日差しが一日一日と暖かさを増し、桜の蕾も色付き始める今日、私たち364名はこの熊本商業高校を卒業します。本日は私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を挙げて下さり、誠にありがとうございます。またご多忙の中ご出席をいただきました保護者の皆様には、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

思えば平成29年の4月、私たちは不安や希望を胸に熊商に入学しました。そして今、再び不安や希望を胸に、次のステージに進もうとしています。この3年間で得た学びや経験、苦業を共にした仲間、培ってきた心身の逞しさ。3年前の私たちが、違うように思えます。熊商で過ごした日々は「成長と絆の3年間」、そう表現できる時間です。特に最上級生としてこれまで以上に努力したこの1年間は、思い出深いものとなりました。令和最初の熊商デパートでは、時代の幕開けにふさわしいものを作り上げようと、小学生と一緒に販売を行う企画や、店舗のリニューアルを実施しました。日に日に不安と緊張感が募りましたが、当日朝10時の開店時「いらっしゃいませ」の発声と同時にお客様が続々と入店される光景は、今でもはっきりと覚えています。大きな安堵感に包まれるとともに、地域の方々の期待と後押しを実感し身の引き締まる思いがしました。全校生徒の力が結集して、今年も熊商デパートは大成功を収めることができました。また、部活動においても集大成の年となりました。部活動は、高校生活で最も情熱を傾け、自分を成長させてくれた場所でした。商業系・文化系・体育系いずれの部活動も盛んで、学校全体の活力となっているのは熊商の伝統の1つです。私が所属したサッカー部では、資格取得や学業との両立に苦勞しながら、部員全員で切磋琢磨し1つのボール、1つの目標を追いかけました。最後の試合となったあの日、終了を告げるホイッスルが鳴った瞬間に見上げた空は、さえずるものが何もない、澄んだ青でした。将来「部活動での経験があったから頑張れた」と思える場面が、きっと来るでしょう。日頃から大切にしていた恩師の言葉、大会に臨むときの高揚感、全校応援をさせていただいたこと。一生、忘れることはありません。高校生活は本当に大切な時間であり、様々な支えがあったことに改めて感謝の意を表したいと思えます。まずは、机を並べて同じ時間を過ごした仲間たちへ。毎日たわいもないことで盛り上がり、これから先も私にとっての財産であるみんなとの出会いに、感謝しています。次に、どんな時も本気で指導して下さった先生方。熊商に入ってよかった、このクラスの一員でよかった、そう思っています。そして、最後に家族へ。やさしさに甘え過ぎてしまうこともありましたが、一緒に悩み、喜び、喜び、いつも私たちを支えてくれました。今まで、本当にありがとうございます。頼もしい後輩たちに後を託し、私たちはこれから、それぞれの夢に向かって旅立ちます。感謝の思いと謙虚さを忘れることなく、支えられる側から誰かを支えることのできる存在へ、高い志と「恕」の心を持った社会人になれるよう努力することを誓います。これまで私たちを育てて下さった全ての方に御礼を申し上げるとともに、熊本商業高校の益々のご発展をお祈りし、答辞といたします。

令和2年3月1日 第72回卒業生総代 中村 蓮

## 熊本県立 熊本商業高等学校

熊商モード 令和元年度 第6号  
令和2年3月24日(火)

発行者:徳永 憲治  
編集者:企画情報部

〒862-0954  
熊本市中央区神水1丁目1番2号  
TEL (096)384-1551  
FAX (096)386-5040

### ～ 目次 ～

- 1 卒業式(校長式辞、答辞)
- 2 課題研究成果発表会
- 3 部活動報告
- 4 学校評価アンケートの結果
- 5 令和元年度進路状況報告



## 課題研究成果発表会

1月22日(水)の5・6限目、体育館で課題研究成果発表会が2・3年生を対象に行われました。本校の課題研究では、3年次に11の講座の中から学科の枠にとらわれず研究テーマを選び、それぞれ年間目標を設定し活動しています。資格取得や商品開発、地域活性化の活動、スキルアップ講座など、それぞれが設定した目標を達成するため教師主導ではなく、生徒が自ら学ぶ時間が「課題研究」の授業です。

課題研究成果発表会でも、3年生が課題研究を通しての充実感や反省点など、自ら感じた熱い思いを2年生や先生方に向けて力強く語りました。2年生は、自分だったら何を学びたいか…と真剣に考えながら話を聞いていました。新3年生が課題研究を通して来年どのように成長するのか、今からとても楽しみです。





# 部活動報告 ～女子バスケットボール部・バレーボール部～

## バレーボール部 主将 芳野

私たちは全九州選抜高等学校バレーボール大会に出場し、予選敗退と悔しい結果に終わりました。

夏からたくさんの練習試合等を重ね、ようやくつかんだ九州大会でしたが、熊商の持ち味である粘り強さと速攻バレーを発揮することができませんでした。いつも熱心にご指導やサポートをくださる椎葉先生や高野先生、鎌田先生や応援してくださる保護者や多くの方々に結果で恩返しできなかったことがとても悔しいです。今回の九州大会では、九州のバレーボールのレベルの高さを痛感すると共に、自分たちの練習への取組、日頃の生活態度が未熟だと学び、考えることができました。

この悔しさと学んだことを糧に、4月に行われる県大会に向けて取り組んでいきます。そして、優勝して九州大会への出場権を得て、次こそ結果を残せるように頑張ります。感染症防止のため学校が休校となり、練習もできず時間は多くありませんが、限られた時間を大切にしっかり仕上げていきます。日頃からバレーボール部を応援してくださる方々には、心から感謝しています。これからも応援よろしくをお願いします。



## 女子バスケットボール部 主将 竹宮

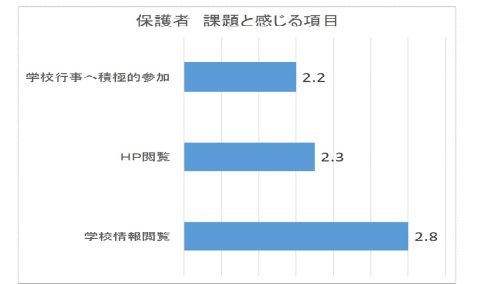
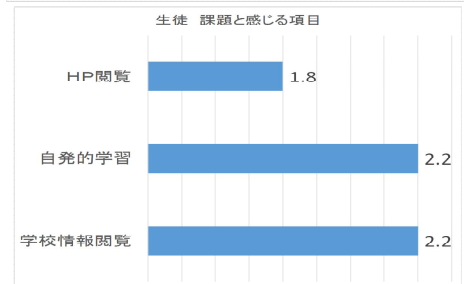
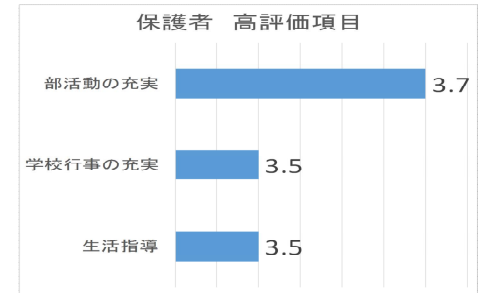
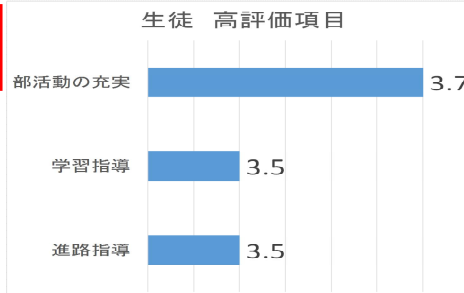
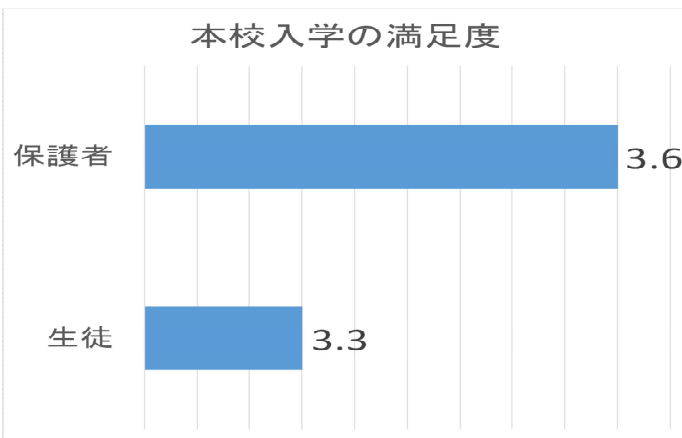
新チームになって2週間程度で新人戦が始まりました。私は最上級生として、2週間でチームを作ることができるかという不安と、先輩方がウィンターカップで優勝されてそのチャンピオンチームの1・2年生としてのプレッシャーを持ちつつ試合に挑みました。ベスト4をかける試合で苦戦したものの勝利をつかむことができ、九州大会への出場も決めることができました。ただ、苦戦したことは非常に悔しく自分たちはまだまだだということを改めて実感できました。残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で大会は中止になりましたが、総体で新人戦で味わった悔しさをぶつきたいと思います。

総体でのチーム目標は、先輩方のように県で優勝し全国の舞台でプレーすることです。そのために、技術面でも精神面でも一人ひとりが成長しなければ優勝は厳しいと思います。藪崎先生のご指導のもと、残りの2ヶ月間を悔いの残らないように過ごしていきたいと思ひます。



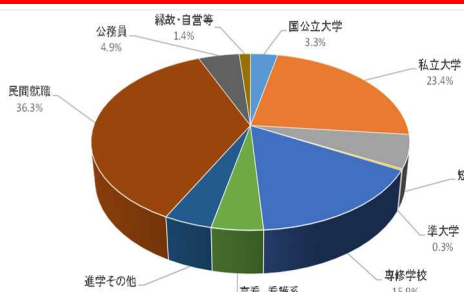
また、今は部員14人で活動していますが、4月からは新入生も入部してくるので、総体に向けて一丸となって良いチームを作っていきたいと思ひます。バスケット部の応援をよろしくお願ひします。

## 学校評価アンケートの結果



昨年12月に、本校生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケートを実施しました。生徒、保護者とも、「本校入学に対する満足度」はとても高く（4点満点中生徒平均3.3点、保護者平均3.6点）、生徒は「部活動の充実」「学習指導」「進路指導」の項目で、保護者は「部活動の充実」「学校行事の充実」「生活指導」の項目で高い評価を出していました。一方で、生徒は「ホームページ閲覧」「自発的学習」「学校情報（熊商モード等）を読んでいるか」の項目、保護者は「ホームページ閲覧」「学校情報を読んでいるか」「学校行事（ミニバレー等）への参加」の項目が課題であると評価しました。経年比較で大きく変化した項目はなく、部活動や学習指導、進路指導の充実、手厚さなどを高く評価してもらっている一方で、本校の教育活動を十分に伝える取り組みが不足している課題が現れました。ホームページに関しては、「熊商ブログ」を中心に、可能な限りコンテンツを更新して最新の情報をお届けするように心掛けています。おかげ様で、1日のヒット数が平均200ヒット程度増加しました。今回いただいた評価を、今後の本校教育活動に反映させていきたいと思ひます。生徒の皆さん、保護者の皆様のご協力に大変感謝いたします。ありがとうございました。

## 令和元年度 進路状況



進学者人数は、4年制大学が97名（国公立12名、私立85名）、短期大学11名、県立技術短期大学校10名、県立農業大学校1名、看護系の学校16名、専修学校その他各種学校が72名です。主な学校をあげると、国公立大では熊本県立大（5名）をはじめ、昨年に引き続き、北九州市立大（4名）、佐賀大（2名）、山口大（1名）です。私立大は熊本学園大（33名）をはじめ、九州ルーテル学院大（3名）、尚綱大（1名）、九州看護福祉大（1名）、東海大（1名）など県内の多くの大学に進学者がいます。県外では俗に「MARCH」と呼ばれる明治（2名）、立教（1名）、中央（3名）をはじめ、日本（2名）、駒澤（1名）、福岡（6名）、立命館アジア太平洋（1名）など数多くの大学に進学します。短期大学は例年多い尚綱短大の幼児教育学科（5名）に進みます。看護系は、熊本市医師会看護専門学校（4名）、熊本看護学校（4名）、熊本駅前看護リハや上天草看護など8名が進学します。理学療法や作業療法、歯科技術など医療分野にも約20名の生徒が進学します。その他、熊商で学んだことをもっと深めたいということから簿記や情報処理などの専門学校にも多くの生徒が進みます。

次に就職ですが、今年度も約86.4%が県内就職で、高い県内就職率となりました。また今年度も多くの求人をしていただきました。（県内求人588（昨年より約174増）、県外求人1,257（昨年より約152増））また、本校生に希望の多い事務職での求人も多くあり、民間就職者のうち約50%が事務職に就きます。公務員については、高い学力と誠実な人柄が求められ、非常に高い競争率の中、18名が4月から公務員として働くことになりました。進路先は国家一般や税務職、海上保安庁、そして熊本県や各市町村の職員、熊本県警、自衛官などです。